産地ブランド発掘事業
取組概要
（H26～H27）

『イチゴ「かおり野」の高品質果実安定生産技術の確立 』

＝三重県＝

【全体概要】

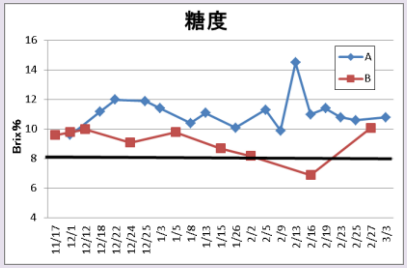
イチゴ「かおり野」は炭疽病抵抗性を持ち、極早生性であることから栽培面積が順調に増加している。一方、草勢が非常に強い事から食味低下・着色不良が発生する時期があり、実需者からも果実品質のばらつきが指摘されている。食味の安定した「かおり野」を供給し、品種の評価を高めるため、草勢管理技術を組み合わせた高品質果実安定生産技術の導入に取り組む。

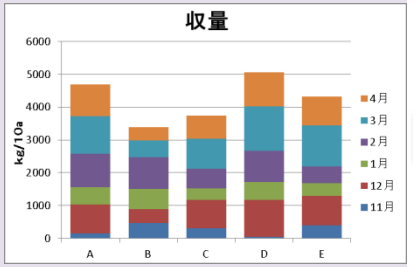
新品種・新技術等の概要

「かおり野」：草勢が非常に強く、食味低下・着色不良が発生する時期が存在。
→温度などの測定データに基づき草勢を管理し、高品質果実安定生産を図る。

【結果】
- 理想的な管理が行われた圃場では高品質が維持されたが、高温状態で着色促進を図っていた圃場では糖度の低下がみられた。
- 高品質圃場の収量は問題なし。

→高品質果実生産を目標とした栽培管理においても収量は十分確保された。
- 種浮果の糖度は通常果より高い傾向。

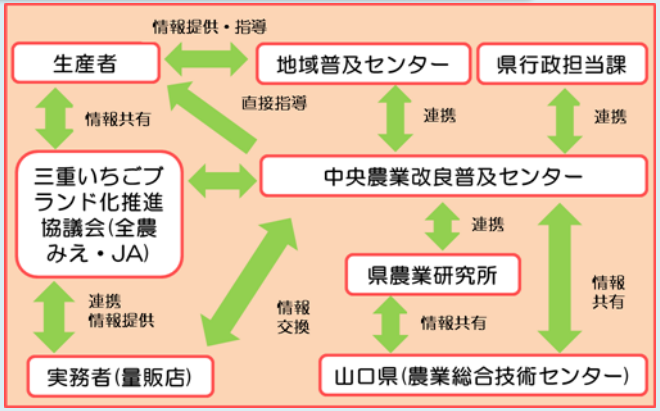




主な取組内容

- 検討会の開催
  （事業運営検討会１回、実証圃設置検討会９回、実績検討会２回）
- 現地圃場において高品質果実の生産を実証
  （実証圃５ヵ所設置、ハウス内環境、果実品質、収量等を調査）
- 実需者を交えて今後の販売に向けた検討会開催
  （高品質「かおり野」ニーズ調査２回、種浮果販売検討会１回）
- コンソーシアム候補と意見交換の実施
  （山口県と高品質果実生産技術に関する意見交換１回）

コンソーシアム候補の体制図



- 中央農業改良普及センターが中心となり各機関の調整・進行管理を行う。
- 山口県と連携し「かおり野」の知名度・評価の向上に取り組む。

課題と今後の対応

【課題と今後の対応】
- 理想的な管理ができなかった生産者の一部では食味低下が発生。

→食味低下の要因を解明し、解決策を講じる。

- 生産者は高品質果実安定生産管理による収量低下を懸念。

→Ｈ２６の結果を生産者にフィードバックする。

- 種浮果の試行販売は未実施。

→再度差別化販売について関係機関と検討する。

- コンソーシアム候補の形成。

→県内ＪＡ、量販店に加え、山口県を含めてコンソーシアムを形成し、「かおり野」の品質向上によるブランド化を図る。